

第469回鉄鋼流通問題懇談会

2025年4月18日（金）14：30

茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 新担当ご紹介：中村真人（なかむら まさと）氏 JFEスチール(株)営業総括部 営業総括室長
3. 全鉄連情勢報告
 - （1）地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 東京、大阪、東北、新潟、兵庫地区概況報告
 - （2）総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「安全への取り組み」について
5. 総括：赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定

2025年7月29日（火）14：30～

於：茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室

次回テーマ：

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	日鉄物産
1. 需給動向 (景況感)	(店売り分野) 一般店売り分野は依然として荷動き低調。人手不足や資材高による慢性的な工期遅延、案件見直しにより中小案件が低迷。25年度の荷動きは24年度並みという見方が強い。 そのような環境下、高炉品種についてはなんとか価格が維持されている。溶協品種については市況の下落が見られるも足元は下げ止まっている状況。ステンレス管においても昨年末以降市況が徐々に下がってきている。	2月末の国内向け薄板3品在庫(メーカー・間屋・全国コイルセンター工業組合の合計、速報値)は前月比-2.2%、8万6000トン減の385万トンとなり、再び減少した。需給の一つの目安とされる400万トンを割り込むのは4カ月連続で、390万トンを下回ったのは昨年12月以来。メーカー在庫Δ1万4千トン、間屋在庫Δ3万6千トン、コイルセンター在庫もΔ3万6千トンとなった。メーカー在庫は、表面処理鋼板の減少が目立った。メーカーの生産調整や、設備トラブル影響があったとみられる。380万トン台は市況がいつ反転してもおかしくない低水準であるが、それ以上に市況の地合いが弱く、内需の縮小が3品在庫の適正値を大きく変えてしまったといえる。 薄板市況の一部輸出企業及びデータセンターなどを除き、非常に重く市況の下値をなんとか維持をしている状況である。	・全国厚板シャリング工業組合 25年2月鋼板流通在庫 34.5万 ^{トン} (在庫率:2.7ヵ月) 前年同月比▲6.8%、前月比▲2.5% ⇒電炉メーカーの事故影響により供給量が減少し在庫量が減少も、需要低調が続いているため、未だタイト感は見られない。 建機:北米、欧州、アジア向けのレンタル需要低位 産機:設備投資意欲減退により低位 建築:人手不足による工事遅れ継続。中小案件も低水準。 橋梁:補修工事案件は安定も人手不足で一部遅延。新橋は低調。	形鋼:2024年2月度のH形鋼のときわ会ベース全国在庫量は60.3千 ^{トン} /月。前月比+3.1千 ^{トン} /月、前年同月比▼7.2千 ^{トン} /月。 建設需要は人手不足や諸コスト上昇等の影響により依然工事遅延や見直しが散見され低調推移。先々は首都圏再開発や物流施設、工場等の建設計画は堅調にあるものの、中小案件含め伸び悩みが続いている状況。 棒鋼:関東地区2月の明細受注量は13万4,213 ^{トン} と前月比▼24.8%と変わらず低調な数量となっている。 電炉メーカーは3月に値下げを発表したメーカーと値上げを発表したメーカーがあり、需要家は動向を見極めている状況。
2. 需要産業動向	(建築・土木) 2025年2月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+2.4%の6.0万戸で、10ヶ月ぶりに増加へと転じたものの依然低水準。民間非居住用建築物の着工延床面積は294万 ^{m2} と前年同月比+5.4%で、8ヶ月ぶりの増加。事務所、工場が減少したが、最も面積の大きい倉庫が増加した為、全体で増加となっている。 (自動車) 2025年2月の国内生産台数は、前年同月比+17.3%、前月比+6.1%の72.4万台。2月の輸出は、前年同月比+3.0%、前月比+20.0%の36.1万台。輸出はアメリカ向けが多く、全世界の内34%を占める。 (建機) 2025年2月の建設機械出荷金額は、内需816億円(前年同月比▲4.3%)、外需1,988億円(同+2.9%)、総合計は2,804億円(同+0.7%)と7ヶ月ぶりの増加。 (造船) 2025年2月の起工量は16隻、67万G/T(前年同月比+18%)。	日本自動車販売協会連合会/全国軽自動車協会連合会が発表した2025年3月の新車販売台数は、前年同月比10.7%増の49万9,745台となった。内訳は登録車が8.8%増の32万9,918台、軽自動車が14.6%増の16万9,827台。1-3月累計販売は13.6%増の128万5,351台であった。 2月の普通トラック(積載量4 ^{トン} 級以上、中・大型の合計)の販売台数は前年同月比13.4%増の5,899台で、5カ月連続で前年実績を上回った。 中型トラック(積載量3~4 ^{トン} 、車両総重量8 ^{トン} 未満)が同39.3%増の1,833台と好調で、販売台数を押し上げた。2025年2月度民生用電機機器の出荷数量はルームエアコンが659千台、前年同月比108.6%となり、5カ月連続のプラス、電気冷蔵庫が251千台、前年比85.4%となり、4カ月連続のマイナス電気洗濯機 2025年2月は、332千台、前年比98.1%で、3か月ぶりのマイナス。 2025年2月の新設住宅着工戸数は前年同月比2.4%増の6万583戸と10か月ぶりの増加に転じた。持ち家が減少したものの、貸家と分譲住宅が増加し、全体の増加につながった。	【造船】 ・輸出船契約実績 25年2月 6隻・32万総 ^{トン} 。(前年同月比 ▲72%、2ヵ月ぶりの減少) ・手持工事量 25年2月末 613隻・2,910万総 ^{トン} 。手持ち工事量は3.7年ほどを保持。世界的な船腹需要増加に対し国内造船所では船台不足が継続。提示船舶はかなり先物となることで用船を前提とした新造契約は検討が難しく、特に海外船主の新造発注の様子が見が続いている。 【建機】・建設機械出荷金額(本体合計) 25年2月 2,804億円(前年同月比+0.7%、7ヵ月ぶりの増加) 国内:816億円(同▲4.3%)、輸出:1,988億円(同+2.9%) 国内は建設用クレーンが増加したものの、7ヵ月連続の減少。輸出は農園開墾向けや鉱山向け需要が伸び、特にアジア・欧州向けの増加が大きい。北米は低迷が継続。 【建築】・鉄骨需要量 25年2月 27.5万トン(前年同月比▲8.3%、3ヵ月連続の減少) 高層ビルや再開発案等の大型案件が減少。中小物件は増加に転じるも低位継続。24年度鉄骨需要量は370万トンを割る見通し。 【産機】・鋼圧機械受注総額 25年2月 218.5億円(前年同月比▲13.2%、2ヵ月連続の減少) プレス系、板金系、サービス系の全分野において前年落ち。米国の関税問題の影響で不透明感が拭えない状況が続いており、当面は一進一退の推移が予想される。	2025年2月の全建築物の着工床面積は808万 ^{m2} (前年同月比+3.8%)と16か月ぶりの増加。内訳として公共建築主27万 ^{m2} (前年同月比▼20.1%)で4か月ぶりの減少、民間建築主780万 ^{m2} (同比+4.9%)で16か月ぶりの増加。 新設住宅着工戸数は60,583戸(前年同月比+2.4%)、新設住宅着工床面積は471.8万 ^{m2} (同比+4.3%)、非住宅着工床面積は294.3万 ^{m2} (同比+5.4%)で2か月連続の減少。 建築着工統計に基づく換算鉄骨需要量は2024年2月単月で27.5万 ^{トン} と前年同月比▼8.3%の減少で3か月連続の減少。 2024年度第4四半期の鋼材需要量は1,909万 ^{トン} の見通しで前年同期比▼0.5%の減少、前期2024年度第3四半期比で+0.1%と横ばいの見通し。
3. 輸出入動向	2025年1月鋼管輸出量 継目無鋼管:2万3,051 ^{トン} (前月比+31%) 溶銲接鋼管:1万4,902 ^{トン} (前月比▲21%) 2025年1月鋼管輸入量 継目無鋼管:1,300 ^{トン} (前月比+4%) 溶銲接鋼管:11,570 ^{トン} (前月比▲2%)	2025年2月の鉄鋼輸出実績(全鉄鋼ベース)は251.3万トン、前年同月比で0.2%減と2カ月連続の減少となった。普通鋼鋼材輸出量は174.5万トン、前年同月比で2.3%増と4カ月連続の増加となった。主要品種別では、亜鉛めっき鋼板(15.1万トン、同18.5%減)が3カ月ぶり、冷延広幅帯鋼(11.9万トン、同0.7%減)が2カ月連続の減少となった。一方、熱延広幅帯鋼(93.0万トン、同7.6%増)が2カ月ぶり、厚板(22.3万トン、同5.1%増)が3カ月連続の増加となった。2025年2月の普通鋼鋼材輸入量は36.7万トン、前年同月比で4.5%減と2カ月連続の減少となった。 主要品種別では、亜鉛めっき鋼板(10.1万トン、同0.3%減)が2カ月連続、冷延広幅帯鋼(5.6万トン、同22.6%減)が2カ月連続、厚板(3.3万トン、同18.2%減)が2カ月ぶりの減少となった。一方、熱延広幅帯鋼(11.6万トン、同0.8%増)が2カ月ぶりの増加となった。	・厚板輸入実績 25年2月 3.3万トン(前年同月比▲17.5%) 韓国3.1万トン(同▲7.8%)、中国0.5千トン、台湾1千トン 国内需要の低迷が続いており、低位横ばい継続。 ・厚板輸出実績 25年2月 22.5万トン(前年同月比+5.0%) 中国3.6万トン(同▲13.2%)、韓国4.4万トン(同▲38.7%) 主力の中国・韓国向けは数量減少も、台湾、インド、インドネシア欧州向けにカバー。今後も各国が通商措置強化の動きがみられることから、厳しい環境が続く見通し。	輸出:2月の形鋼輸出数量は、H形鋼以外も含む全体で38,591 ^{トン} と前月比+104.3%の増加。 棒鋼輸出数量は11,230 ^{トン} で前月比+130.9%と増加。 輸入:2月の形鋼輸入数量はH形鋼以外も含む全体で7,283 ^{トン} と前月比▼45.5%の減少。棒鋼輸入数量は3,635 ^{トン} で前月比+164.7%と増加。
4. 海外市場動向	原油価格 2025年3月平均WTIは67.82ドル/バレルと前月比▲5%。米中の貿易摩擦による景気後退懸念の高まりを背景に直近は60ドル/バレル前後で推移。 米国リグカウント数は586基と低位で推移。(1987年から2025年までの平均が500基で、2014年10月の1,609基がピーク、1999年8月の98基が最低記録)	中国国内在庫3月末時点で1,250万トンと4週連続減少と内需が悪い中、中国国内鉄鋼メーカーは粗鋼生産を高く保とうと輸出に注力、米国の関税引き上げ前の駆け込み需要もあるとみられるが、中国の鋼材輸出力量は1-3月合計2,743万トンと前年同月比6.3%増加した。	【韓国】 ・厚板生産量 25年2月 64.5万トン(前年同月比▲10.6%) ・厚板輸出量 25年2月 20.4万トン(同▲5.2%) ・厚板輸入量 25年2月 4.2万トン(同▲36.3%) ・国内厚板見掛け消費量 25年2月 53.6万トン(同▲18.2%) 国内需要低迷が続いており、2ヵ月連続で生産は60万トン台、見掛け消費量は50万 ^{トン} 台に留まる。輸入は昨年10月からの対中アンチダンピング調査が背景にあり25年以降減少傾向。	米国の通商政策変更による不確実性が懸念されている中、世界各国でも通商措置が急拡大している。中国は景気刺激策により製造業等の一部で改善は見られるものの米中貿易摩擦の激化懸念もあり景気回復には足踏みを続けている。2月の世界粗鋼生産量は前年同月比▼3.4%の1億4,470万 ^{トン} と2ヵ月連続の減少。中国が減少し、中国以外も低調だった事が要因。然し乍ら、中国政府による減産指令は出ていない模様にて、引き続き動向を注視する必要がある。

鉄鋼流通問題懇談会（2025年4月）

発表者 発表項目	メーカー
	J F E スチール
1. 需給動向（景況感）	（国内）・3月の日銀短観では、企業の景況感を表す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（12月）調査比▲2の+12と、若干悪化した形（前回先行き比では▲1）になった。先行きは+12の足元比±0と、横ばいの方向になっている。 ・家計部門では、2月の小売業販売額が前年同月比+1.4%と36ヵ月連続の上昇。物価上昇などの影響により、拡大傾向が継続。 ・製造部門では、2月四輪車生産が前年同月比+18.0%と2ヵ月連続の増。2月の機械受注（民需）は前月比+4.3%と3ヵ月ぶりの増。 ・建築部門では、2月の全建築物建築着工床面積が808万㎡（前年同月比+3.8%）となり、16ヵ月ぶりの増。 （海外） 世界全体として、米国の関税措置の動向・影響が最大のリスク。景気後退も意識され始めており、リスクへの備えが必要。 米国：堅調な個人消費もあり、主要先進国内では底堅い成長が続くものの、関税措置影響で景況感は徐々に悪化。 欧州：露宇戦争長期化、域内最大経済国ドイツの低迷等により、経済成長は緩慢。政治不安定化・米国関税措置は追加リスク要素。 中国：引き続き、不動産部門の不振長期化が成長を下押し。内需は力強さを欠く状況が続く。景気を下支えする輸出も貿易摩擦の先鋭化により不透明感が一層拡大。米国を始めとした各国の対中通商施策の動向・影響をさらによく見ていく必要がある。 ＜国内鉄鋼需給＞ （生産）・2月の粗鋼生産（速報）は640万tと前年同月比で12ヵ月連続の減少。 （出荷）・2月の普通鋼国内向け出荷（速報）は274万トンと前年同月比で2ヵ月ぶりの減。輸出向け出荷は173万トンと2ヵ月ぶりの増。 （在庫）・2月末の普通鋼鋼材国内向け在庫（速報）は496万トンと前月末比で2ヵ月連続の減。 ・2月末の薄板3品在庫は386万トン（前年同月比▲8万トン）で2ヵ月ぶりの減。 ・2月末の厚板シャー在庫は35万トン（前年同月比▲1万トン）で8ヵ月連続の減。
2. 需要産業動向	〔建 築〕・2月の新設住宅着工戸数は6.1万戸（前年同月比+2.4%）で10ヵ月ぶりの増。持家は減、貸家・分譲は増。 ・2月の非住宅着工床面積は294万㎡（前年同月比+5.4%）で8ヵ月ぶりの増。使途別では、店舗・倉庫が増、事務所・工場は減。 〔自動車〕・3月の国内販売（輸入車除く）は45.9万台（前年同月比+10.9%）で3ヵ月連続の増。 ・2月の完成車輸出は36.1万台（前年同月比+3.0%）で2ヵ月連続の増。 ・2月の四輪車生産は72.4万台（前年同月比+18.0%）で2ヵ月連続の増。 〔造 船〕・2月の新造船受注量は32.4万GT（前年同月比▲72.1%）。手持工事量は2,910万GT（前月末比▲1.0%）で2ヵ月連続の減。
3. 輸出入動向	〔輸 出〕・2月の全鉄鋼輸出は251万トン（前年同月比▲0.2%）で2ヵ月連続の減。向先別では、ASEAN向け増、韓・中向け減。 〔輸 入〕・2月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は40万トン（前年同月比▲5.8%）で6ヵ月ぶりの減。
4. 海外市場動向	・2月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億4,470万トン（前年同月比▲3.4%）で2ヵ月連続の減。 ・3月の中国粗鋼生産（速報）は9,284万トン（前年同月比+5.2%）で2ヵ月ぶりの増。 ・3月の中国鋼材輸出（速報）は1,046万トン（前年同月比+5.8%）で2ヵ月ぶりの増。 ・中国市中在庫は、4月11日時点で1,176万t（前年同期比▲24.1%）。例年通りの動きではあるものの、春節前後で在庫は積み上がり。